

NPO 理事からの昨年の振り返りと今年の抱負

新年明けましておめでとうございます。今年もNPOを宜しく願いいたします。2016年最初の記事として、NPOの事務局長、大阪の理事、理事長から昨年の振り返りと今年の抱負をいただきました！以下となっております！

【井上事務局長】 今年はお応援団がたくさん出てきてくれたという印象があります。地道にやってきた結果だと思います。来年は情報発信と共に具体的な行動をしながら、無電柱化が少しでも進むように活動していきたい。

【荒閑理事】 前回のセミナーで秋本組さんの技術力と吉本ポールさんが紹介した姫路の照明灯が印象的でした。2016年は意見交換会を開催しモデル商品ができる形にしていきたい。

【井上理事】 低コストの手法と無電柱化推進展ができたのが良かったです。2015年は発信の年、来年は実証の年、技術の提案もやっていきたい。

【伊津理事】 潮目が変わったなという印象がある。同じ業界の人達が注目するようになった。法案を成立させるために世論形成の方と協力していきたい。2016年4月の札幌支部の立ち上げも皆さんに喜んで貰えるよう頑張りたいと思いますので、ご協力宜しくお願いします。

【中村理事】 一般市民と同じ目線で無電柱化を進めていきたいと思っております。



【木村副理事長】 セミナー以外にやろうとしていたことができなかつた。メーカーのセミナー以外にも何か立法化を促進するような啓発活動ができるようにしたい。

【長谷川副理事長】 進化しつつあるという印象があります。私はデザイナーなので今後どのように世論に対し発信していくのか模索します。地中化した後の景観をどうしていくか考えていくことも大事なのではないかと思います。

【高田理事長】 国の動き、市区町村、民間のそれぞれが独自に動き出した。いい状況が生まれてきたと思う。会員数も1.5倍に増えた。無電柱化の日のシンポジウムも一般市民の参加も多かった。2016年は二つの山を考えたらいと思う。一つ目は春の法制化に向けて盛り上がりを作っていく事。二つ目は秋の無電柱化の日をもっと認知させていく必要がある。我々NPOが主体となって盛り上げていけたらと思う。低コスト化をリアルにしていく。来年は「無電柱化元年」と位置付けたいと思う。



↑高田理事長

皆さんありがとうございます！本年度も無電柱化を盛り上げていけるよう、ご協力宜しくお願いします！

日本の電柱の現状について感じる事を1500字程度で書いてお送り下さい、掲載させて頂きます。自己紹介(お仕事、住所等)と顔写真を添えて下さい。お待ちしております！事務局

「美空」に載せてほしい事、調べてほしい事等ありましたら info@nponpc.net までお送り下さい！皆様のご意見、お待ちしております！tel:06-6381-4000 Fax: 06-6381-3999(※番号変わりました)

日本の空を、安全・安心で美しく！

美空 ~MISORA~

第88号

発行日:2015年1月25日

発行者:NPO法人電線のない街づくり支援ネットワーク
理事長 高田 昇

【活動報告】 ■理事会 12月22日(金)18時~COM計画研究所

【技術開発委員会】井上理事:バブコメについて、投稿済。

伊津理事:寒地土木研究所にNTTから12月初旬に共同実験の打診あり。そのため現在ストップしている状態。NPOが関与して、実績として残すことが重要。

【世論形成委員会】荒閑理事:大阪市本宮の電線共同溝工事の地元説明会時に前回のセミナーの感想を聞いた。材料メーカーも参加した技術検討の意見交換会を希望する声あり。

伊津理事:博報堂訪問。無電柱化の取組説明。世論を盛り上げないと難しい。NPOは草の根活動を続けていくべき。

【事業協力委員会】井上事務局長:市区町村長の会の情報提供。NPOと連携して行動するとの決議。今後ブロック毎の勉強会を行う予定。土木学会景観・デザイン研究発表会にパネラー参加。大阪府箕面整備事務所から箕面森町での無電柱化相談あり。一般社団法人電気通信協会の技術部会で講演。理事長が無電柱化のコラム「読売オンライン」執筆依頼1月初旬配信。

■東京活動委員会 12月15日(火)18:10~ 経団連会館 C2会議室

【川越街並み視察ツアー】高山理事:予定日を3日程度指定してほしいと言われている。候補日:1/28、21、22日 川越街歩きの後NPO理事会・活動委員会という流れ。

【無電柱化を推進する市区町村長の会】事務局:今後の活動は法案の早期成立を求めて国会関係者や議員への呼びかけ。

【博報堂面会】伊津理事:無電柱化は面白そうとのこと。ただ、議員立法は成立がかなり難しいとのこと。強力なスピーカーが必要。例えば梶添都知事。博報堂として取り組む場合は、議員立法で国会に提出済ということが必要。それによって動き方が変わる。国会に必ずあげるなら市区町村も乗ってくる、法律になれば東電も乗ってくる。

前川理事:NPOでシンポジウムをやって援護射撃をする 両立てでやっていけばいい。



↑12/22日 NPO大阪忘年会の様子



↑12/15日 東京忘年会の様子

◇次回理事会日程 大阪/1月29日(金)18時~ COM計画研究所
東京/1月28日(木)19時~ 経団連ビル会議室

第11回土木学会景観・デザイン研究発表会の参加報告

2015年12月12日(土)から13日(日)にかけて、東京都世田谷区の国土館大学世田谷キャンパスで開催された『第11回土木学会景観・デザイン研究発表会』に当NPOの理事である前川氏が参加されました。その時のレポートを寄稿していただきました。

【基調講演 松崎氏(大日本コンサルタント㈱)】

初日のオープニングの基調講演は、大日本コンサルタント株式会社所属、千葉大学造園学科でも教鞭をとる松崎喬氏による『ある晴れた日に黒子が壇上に上がっているのか?』。ユーモアに溢れる語り口で、道路建設のコンサルタントとして携わってこられた日光バイパス道、東北自動車道、道央自動車道など数多くの道路デザインにおいて、デザイン性や使い勝手を重視した立案や改案に奮闘努力された事例を報告。「特別なことはない」、「まっとうに景観に配慮すると環境問題は生じず」、「土木はひかえめに黒子に徹する」などの格言で締めくくられました。



↑ 基調講演の様子

2会場に分かれてテーマ別に進められた発表会セッションは、「**土木技術 遺産と景観**」、「**街路景観の現象把握**」、「**公共空間デザインの今昔**」のテーマ発表を聴講しました。

「土木技術 遺産と景観」セッションの中で、米国の「ヴァナキュラー建築」という、歴史的建物の保存について発表されました。ヴァナキュラーとは土着、もしくは、土地固有の建物や建造物を指し、これを保存利用し、次の世代に引き継ぐ事例が多いとの事。日本でも、例えば津田塾大学講堂が該当するそうで、日本国内でも同様な動きを期待したいものです。

「街路景観の現象把握」セッションでは、「**知覚的評価に基づく歩行者属性別の歩行空間の質の評価**」の発表で、道路空間の質を一般的に評価する手法が必要であると主張されました。「Walkability」や「イベントの歩行空間の評価」などの内外の研究をベースに、「都市空間の質」を「重要度」と「満足度」の尺度で数量的に評価していくことを提案されました。

「公共空間デザインの今昔」セッションでは、「**ブルックリン・ブリッジ・パーク(BBP)のスケッチ**」の発表で、住民組織が自ら会社組織を運営し、独自にデザイン事務所を雇って街や公園を設計し、マンションを建設、運用して資金調達し、街の価値を上げる運営をしている事例を発表されました。住民コミュニティが「効率と公平」を大切にしているデモクラシーの進化度に驚かされました。また、「欧州における近年のプロジェクトに関する考察」の発表で、オランダが治水対策のため国土全体で川のためのスペースを確保するプロジェクトや、ドイツのある街にて幹線道路で分断された街区を、アイデアコンペで道路の地下化により是正した事例も興味深い内容でした。

3会場に分かれてテーマ別に進められたテクニカルディスカッションは、「**無電柱化と景観まちづくり**」を聴講しました。

電線地中化に関するコラム・情報を月2回メールマガジンで配信しています！

ぜひこちらまで登録下さい！ → <http://www.mag2.com/m/0000266000.html>



【和田氏(国土交通省 道路局 地域道路調査官)】

和田氏は「**景観の観点から見た無電柱化**」の題で、台風等で年間約500本の電柱が倒壊して停電などの被害が出る事、電柱に衝突する死亡事故の多発、世界遺産指定地区では電柱を抜くよう指示を受けているなどの問題点が指摘されました。これに対し、電線地中化の低コスト化に向けた取り組みや、緊急道の無電柱化が2016年4月施行予定であること、固定資産税の減免措置が検討中であることが紹介されました。

【井上氏(当NPO 事務局長)】

井上氏は、外資系デベロッパーによる港区元麻布の無電柱化において、民地への地上機器設置や要請者費用負担、無電柱化の覚書締結をNPOがお手伝いした事例や、福知山市の広小路エリアでは、勉強会を実施して住民と事業者、監督官庁の合意形成をリードし、2016年に工事開始が決定したことや、京都市先斗町で京都市が無電柱化を決定した事例などが紹介されました。無電柱化の実現には、浅埋設や法制化などの新スタンダードの確立が重要と訴えられました。



↑ パネルディスカッションの様子

【細田氏(川越市 道路路課)】

細田氏は、川越市の歴史的街並み保全と街路事業により、中央通りを歩道空間の確保と無電柱化、石張り舗装を、道路整備計画の実施の際に事業者負担で地中化し、20メートル幅の当初案よりずっと安価に収まった事例を説明されました。これは、「中央通り地区の街づくり」として都市景観条例の実施対象となり、2015年度完了予定とのことです。

【松田氏(寒地土木研究所地域景観ユニット総括主任研究員)】

松田氏は「**ルーラルエリアや積雪寒冷地における無電柱化のニーズと効果**」の題で、街路樹木を過剰に剪定する弊害や電柱衝突で年間50名以上死亡している問題点を指摘されました。北欧では防災のために積雪寒冷地での地中化対策を実施している事、ヨーロッパでは直埋の機械を使った低コスト化が普及し、事業者が機械を導入して施工していることなどを紹介されました。ニーズと効果の観点から、すべてを地中化するのではなく、電柱の片寄せやセットバックなどの方式も適宜、導入実施する提案がなされました。

【増山氏(熊本大学工学部付属 グローバルものづくり教育センター 特定事業研究員)】

増山氏は、九州における道路づくりのアドバイザー経験から、道づくり、まちづくりのビジョンがない問題を指摘され、景観カルテや景観チェックシステムなどを導入する提案がなされ、一例として国土交通省九州地方整備局が作成した「熊本県内電線共同溝事業 景観整備方針(案)」を紹介されました。また、無電柱化から「景観まちづくり」に発展させる活動が重要であることを指摘されました。

パネル討論では、日本では電線共同溝方式を要請者負担で実施しているのに対し、海外では事業者負担で実施しており、日本は公共が負担し過ぎであるとの指摘や、無電柱化の進め方を標準化したり、道路づくりや街づくりの各フェーズで景観デザインのチェックを設けるべきとの指摘もありました。給電方式において、世界的には230V給電のため地上機器の間隔が2Km程度と長くとれるのに対し、日本は100Vで50m程度と短く、給電方式を見直す指摘もされました。

最新情報はHPで <http://nponpc.net/> フェイスブック <http://www.facebook.com/NPONPC>